



水産業



ケニア

BOP実態調査レポート

■ 概要 ■

ケニアは農業国であり、国民の多くが何らかの形で農業に関わっている。その他の経済活動としては、鉱業、林業、水産業がある。水産開発省によれば、水産業がGDPに占める割合は約0.5%である。水産資源を容易に利用できる地域においては、水産業が主な産業になっている。水域や季節、漁に使用する用具によって獲る魚は変わってくる。水産分野は直接に約8万人を、間接的に約80万人を雇用している。2006年の水産物の生産は約16万トン、金額にして87億シリング（以下、Ksh）、同年の水産物輸出額は約50億Kshであった。水産業の年間成長率は約5%と推計されている。

ケニアの水産業には、海面および内水面における捕獲漁業と養殖業がある。



海面漁業資源

資源には、領海12海里とインド洋の排他的経済水域200海里が含まれる。海岸線は直線距離にして約420 km、地形を考慮すると約880 kmにわたって広がっている。沿岸で漁をしているのは主に零細漁業者で、大部分が無動力の約5,000隻の漁船が、年間約7,000トン、約5億Kshの漁獲を得ている。沖合の漁業海域では遠洋漁業国（DWFN）の船舶が、カツオやマグロ類の漁をしている

内水面漁業

ケニアは、1.1万km²程の内水面に恵まれている。年間漁獲高の約96%は内水面漁業からで、このうちビクトリア湖が大きな部分を占めている。湖や河川で漁をしているのは、通常、小型木造船でたいていは帆を備えている。漁具は基本的に刺し網やはえ縄、地引き網などである。

養殖も行われている。多くの養殖家が池で魚を養殖しており、伝統的に魚を好まなかった地域でも養殖が増えている。ケニアの養殖は次の3つに分類できる。

- ・温淡水養殖：養殖池を利用した各種ティラピアやナマズの養殖。
- ・冷淡水養殖：水路やため池を利用した集約システムによるニジマスの生産など。
- ・海面養殖：ケニアでは未発展。

養殖が漁業生産額に占める割合は約1%である。現在の養殖場の総面積は722.4 ha（ダムでの養殖を含む）となっている。これら養殖場の年平均生産高は4,300トンである。



利用されている機械設備

水産業は機械化が遅れており、養殖業者は伝統的な道具や機械を用いて養殖池を管理している。これは、養殖池があまり大きくない場合は、取り扱いが比較的容易なためである。

沖合漁業の場合、漁船やトロール船に専用の設備を備え、高度に機械化された船舶を使用する大規模漁業者が存在する。こうした漁業者の多くは国際的な水域でも漁をしている。船には通常、保存設備があり、中には加工設備を持つ大型のものもある。



機械の費用

国際的な基準に合う漁船や漁具はきわめて高く、そのためケニアの漁業者は費用負担が可能な他の手段を選んでいる。大部分の漁師は自分で船や小舟を作るが、購入する場合もある。費用はサイズや機械設備、原産国、輸送料等により、5万Kshから数百万Kshまで様々である。特に、漁船や輸送車両の保存設備(トラックや飛行機、船舶の冷蔵コンテナ)や加工設備は高価である。

水産物市場

魚は優れた白色系の肉(ホワイトミート)で栄養価が高い。水産物生産の80%以上が地元向けで、残りは原料または加工品として輸出されている。他の肉類と比較して魚の価格は高い。

魚の平均的な価格は次の通り。

製品	平均単価(1 kg当たり、Ksh)
魚(生)	1,000
魚切り身	1,500
干し小魚	200
魚加工品	種類、量、加工法、流通コストによって異なる





漁場から市場までの輸送の際に冷凍設備のあるトラックが使われる。これにより、傷みやすい商品を新鮮なまま目的地に届けることができる。通常、市場では衛生上の必要性から指定された場所に置かれる。魚は市場からスーパーマーケットや鮮魚店などの小売店に配送されて販売される。



養殖業が直面する問題として次のものがある。

- 国境を越えた漁業や取引の競争が高まっているが、国内の漁業者は規模が小さいため価格決定権が弱い。
- マーケティングが不十分で、特にEU向け輸出市場と国内の魚に馴染みのないコミュニティに対して不足している。
- 養殖業者が、市場が求める品質や、場合によっては量を満たすことができていない。
- 水産業の包括的な政策や基本計画がなく、そのため生産コストや物流コストの増加を招いている。
- 水産業の資金調達力が低く、養殖業者は実現可能な事業を行うための必要な資金を得ることが難しい。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。JETROでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、JETRO及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。